

# J.LEAGUE™ NEWS



U-16 Jリーグ選抜 韓国キャンプ

釜山アイパーク戦のキックオフ前に握手を交わすキャプテンの吉原



U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ

ジーコ氏より大会参加の記念品を受けるキャプテンの市丸

## U-16・U-15・U-14・U-13 2012 Jリーグ選抜 海外キャンプ

韓国、ブラジル、中国、タイへ派遣。ピッチ内外の貴重な国際経験を積んで帰国

Jリーグは7月から9月にかけて、Jクラブのアカデミー所属の選手を選抜したチームによる恒例の海外キャンプを実施した。U-16 Jリーグ選抜を韓国(8月21~27日)、U-15 Jリーグ選抜をブラジル(8月24日~9月3日)、U-14 Jリーグ選抜を中国(8月14~28日)、U-13 Jリーグ選抜をタイ(7月30日~8月3日)へ派遣。大会参加、トレーニングマッチなどでプレーのレベルアップを図る一方、現地の生活の一端に触れて見聞を広めた。なお、各選抜チームは、ことしもJリーグオフィシャルエクイップメントパートナーであるアディダス ジャパン株式会社よりユニフォームなどの提供を受けた。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

**Calbee**

**Canon**

**KONAMI**

**AiDEM**

**Coca-Cola**

**M**

**JCB**

J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER

J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER

**朝日新聞**

**東京エレクトロン**

LEAGUE CUP SPONSOR

SUPER CUP SPONSOR

J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER

J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER

J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER

SPORTS PROMOTION PARTNER

J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER

**ヤマザキナビスコ**

**FUJI Xerox**

**adidas**

**Johnson & Johnson**

**スカパー!**

**OCBC**

**espn**

# Report リポート 2012 Jリーグ選抜 海外キャンプ

## U-16 Jリーグ選抜一体格で勝る相手と渡り合う U-15 Jリーグ選抜一初の準々決勝進出

今回が3回目の海外キャンプとなるU-16 Jリーグ選抜は、韓国の蔚山でKリーグクラブの育成組織チームや強豪高校と、トレーニングマッチを行った。

初戦で顔を合わせた浦項スティーラーズは、カテゴリー別の韓国代表選手4人を含み、体格で勝るチーム。U-16選抜は相手のリードを追う展開となるも、粘り強く戦い2-2で引き分けた。体格差を前面に出し、ロングボールによる攻めを徹底してきた蔚山現代ホランイとの第2戦は、0-6の黒星を喫した。

強豪校である鶴城高との第3戦は、攻守両面でハードワークを発揮し3-1と勝利。この日の午前には、市内のアーケードを散策するなど、現地の人々の生活の一端にも触れた。翌日は再び同高と対戦し、上級生が出場した相手に2-5と敗戦。釜山アイパークとの最終戦では、気持ちのこもった戦いで3-3の引き分

けに持ち込んだ。

海外キャンプを終えた選手たちは「パスや技術、球際では勝負できたが、シンプルにディフェンスラインの背後を狙う相手の戦術への対応が難しかった」「コンディションを整えるためには、どのような環境でも食事をしっかり取ることが大事」などの感想を述べた。

海外キャンプで最も長い歴史を持つU-15 Jリーグ選抜は、今回が8回目の実施。ジーコサッカーセンターなどが会場となる日伯友好カップで、初めてグループリーグを突破した。

ボアヴィスタとのグループリーグ初戦は終始、優勢に試合を進め、2-0と幸先のいいスタート。続くサンtos FC戦は、時間の経過とともに相手のプレスにも慣れ、2-0と連勝した。

クルゼイロとの第3戦の前には、日本との2014 FIFAワールドカップブラジル アジア最終予選に備えてイラクへ向かうという同代

表監督のジーコ氏から、大会参加の記念品が手渡された。試合は一進一退の攻防の末、2-2と引き分け、2勝1分でグループ首位が決定。準々決勝ではアトレチコ・ミネイロに0-1と惜敗したものの、日伯友好カップ出場以来初めて、準々決勝進出という成果を挙げた。

チームに帯同したJリーグの窪田慎二団長は、「選手たちは全力を出し切ってくれた。ピッチ外でも自立して、いろいろなことにチャレンジしてくれた」と、海外キャンプを振り返った。

なお、U-14 Jリーグ選抜、U-13 Jリーグ選抜の海外キャンプの模様は、前号で既報。中国の雲南省昆明市で開かれた2012全国青少年男子サッカー選手権でセカンドステージに進出したことをお伝えしたU-14選抜は、2勝1敗の成績で広州選抜と勝点が並ぶも、得失点差わずか1で下回り、惜しくも優勝を逃した。



### U-16 Jリーグ選抜 韓国キャンプ



帰国前日、通訳の李さんに感謝を込めてJリーグのペナントをプレゼント



数多くの皿が並ぶ韓国料理。次第に慣れて食欲は旺盛に



釜山アイパークとのトレーニングマッチ(白がU-16選抜)



蔚山市内のアーケードを散策する選手たち



### U-15 Jリーグ選抜 ブラジルキャンプ



リオデジャネイロ市内を見学。サンバカーニバルが行われる会場を訪れて記念撮影



アトレチコ・ミネイロとの準々決勝は惜敗も、最後まで諦めない姿勢で戦い抜いた



ブラジル名物のシュラスコを堪能



ブラジル全国選手権の試合を観戦

# 準決勝第1戦で鹿島、F東京が先勝

2012 Jリーグヤマザキナビスコカップの準決勝第1戦が9月5日に開催され、いずれもホームで戦った鹿島アントラーズ、FC東京が先勝した。鹿島は県立カシマサッカースタジアムで柏レイソルに3-2と競り勝ち、F東京は味の素スタジアムで清水エスパルスに2-1の逆転勝ちを収めた。



©J.LEAGUE PHOTOS  
2得点を挙げる活躍で鹿島を勝利に導いた大迫(右)

鹿島はFW大迫勇也が2得点を挙げる活躍などで柏を振り切り、2連覇、さらに大会史上最多となる5回目の優勝へ前進した。7分にMF小笠原満男のヘディングによるパスを受けて大迫が先制した鹿島は、35分に追いつかれるも、その1分後には小笠原からFW興梠慎三、MF柴崎岳とつなぎ、最後はMFレナトが決めてリードを取り戻した。後半に入り、62分に同点ゴールを許して2-2となつたが、69分には大迫が決勝点をマークして3-2とし、柏に追加点を許さなかった。鹿島のジョルジニョ監督は「勝点3を取れたことは非常

に良かったと思う。第2戦では引き分け以上で決勝に進めるという条件を得ることができた」と、先勝の意義を語った。

鹿島のリードを追う展開となった柏も、粘り強く戦った。相手に得点を奪われるたびに、まずMF茨田陽生、そしてMFレアンドロ・ドミンゲスが決めて同点に追い付いた。三度目の同点ゴールこそ生まれなかったものの、公式試合では4試合ぶりに相手のゴールネットを揺らすなど、第2戦のホームゲームに望みをつなぐ2得点を記録した。

F東京は清水のリードを追っていた35分、FW石川直宏のチャンスメークから、スコアを1-1とした。MF徳永悠平のパスを受けて石川が右サイドからゴール前へ折り返すと、走り込んだFW梶山陽平が同点ゴールを決めた。後半は一進一退の展開が続いたが、均衡は80分に破れた。ペナルティーエリア内でDF丸山祐市への反則で得たPKを、FWルーカスが落ち着いて決め、F東京が逆転に成功した。

清水は序盤、F東京の攻勢をしのぎ、FKのチャンスを生かして相手のオウンゴールを誘



©J.LEAGUE PHOTOS  
F東京はルーカスがPKを決めて清水に逆転勝ち

い、23分に先制した。その後はなかなか得点チャンスをつくることはできなかったものの、粘り強い守備によって1点差をキープしながらタイムアップ。MF村松大輔は「アウェイゴールが奪えたのは大きいし、次は勝つしかないと思っている」と、決勝進出の懸かるホームでの第2戦を見据えた。

第2戦は、10月13日(土)に行われる。



©J.LEAGUE PHOTOS  
おなじみの「ナビスコキッズイレブン クラブ」といっしょにファイナルを目指そう!!も開催(味の素スタジアム)

## ■2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント 組み合わせ

※表の左側のチームをホームチーム扱いとする。

(表の右側のチーム: 第1戦ホームチーム / 左側のチーム: 第2戦ホームチーム)



## ニューヒーロー賞 投票途中結果

～準々決勝終了時の得票上位選手10人を発表～

得票上位選手10人		
(準々決勝第2戦終了時) 得票順ではありません。		
選手名	所属	ポジション
榎 翔太	札幌	FW
武藤 雄樹	仙台	FW
大迫 勇也	鹿島	FW
小島 秀仁	浦和	MF
矢島 慎也	浦和	MF
齋藤 学	横浜FM	FW
石毛 秀樹	清水	MF
山田 大記	磐田	MF
柿谷 曜一朗	C大阪	MF
清水 航平	広島	MF

## 第92回 天皇杯全日本サッカー選手権大会もスタート



©J.LEAGUE PHOTOS  
柏(黄)は弟分の柏U-18に貴重勝ちを収めた

第92回天皇杯全日本サッカー選手権大会が9月1日にスタートし、J1・J2のチームは同8、9日の2回戦から登場した。本大会には、都道府県代表の47チーム、JFLシードの1チーム、そしてJ1・J2の40チームという計88チームが参加。ノックアウト方式によって、元日に国立競技場が舞台となる決勝を目指して戦いが繰り広げられる。優勝チームには、翌シーズンのAFCチャンピオンズリーグ出場権も与えられる。

J1勢は18チーム中13チーム、J2勢は

22チームのうち13チームが3回戦へ進出した。昨シーズンのJリーグチャンピオンである柏レイソルは、千葉県代表として出場した柏レイソルU-18に3-0と貴重勝ち。J1で首位に立っていたベガルタ仙台は、ソニー仙台FC(宮城県代表)とのダービーマッチに1-0と競り勝った。一方、昨シーズンの天皇杯に優勝を飾ったFC東京が、横河武蔵野FC(東京都代表)に敗れる波乱もあった。

3回戦の16試合は、10月10日(水)に行われる。

## ミャンマーナショナルリーグ(MNL)とパートナーシップ協定を締結

Jリーグは8月27日、ミャンマー国プロリーグのミャンマーナショナルリーグ(Myanmar National League／略称：MNL)とのパートナーシップ協定を締結した。Jリーグにとって、海外のプロリーグとのパートナーシップ協定締結は、こどし2月のタイプレミアリーグ(TPL)、同8月のベトナムリーグ(Vリーグ)に続いて3件目となる。

JリーグとMNLは今回の提携をきっかけとして、両国のフットボール発展のためにコミュニケーション、マーケティング、大会運営、アカデミー、選手の移籍など、さまざまな分野で協力し、プロリーグの組織、マネジメントの質向上と効率化を目指す。

Jリーグの大東和美チエアマンは、パートナーシップ協定の締結、会見に臨んだ他、現地クラ



大東チエアマン(左)とミャンマーサッカー協会会長兼MNL委員会チエアマン会長のウー・ゾウ・ゾウ氏



Jリーグアジアアンバサダーの木場氏の指導によるサッカークリニックも行われた

ブ施設の視察なども行った。さらに、現地関係者からミャンマー事情、経済情勢などについて情報を収集した。

また、パートナーシップ協定の締結後、Jリーグ

グアジアアンバサダーの木場昌雄氏によるサッカーカクリニックを、ミャンマーのマンダレーフットボールアカデミー所属の選手20人(11~13歳)を対象に実施した。

## C大阪、神戸のU-15チームがタイに遠征



タイ側からの要請で、Jクラブ同士の対戦も実現



試合後の交流会で親睦を深めた両国の選手たち

セレッソ大阪とヴィッセル神戸のU-15チームが8月27~30日、タイへの遠征を実施した。こどし3月にC大阪がタイのバンコク・グラスFCと、神戸が同じくチョンブリーFCと業務提携を結び、その一環として実現したもの。現地では4チームが対抗戦を行い、試合

後には交流会で相互の親睦を深めた。

試合が開催されたのは、タイの首都バンコクから南東へ80km、チョンブリー県を本拠地とするタイプレミアリーグの強豪クラブ、チョンブリーFCのホームスタジアムであるチョンブリースタジアム。東南アジア特有の暑さ、豪雨と

いった厳しい自然条件もあり、普段はなかなか対戦機会のないチームとの試合で、貴重な経験を積んだ。また、交流会では積極的に同年代の選手たちとのコミュニケーションを図った。

日本の選手たちはタイの選手を「テクニカルも高いし、みんな体が強い。交代で入ってくる選手もそうだったので、層が厚いと感じた」と評価。コーチたちも「海外にはこういうチームもあるんだ、ということを知る機会は必要だと思う。それは将来、彼らが世界と戦う上で、貴重な経験になってくる」と、国際経験の重要性を述べた。

Jリーグと東南アジア各国リーグのパートナーシップ協定が相次ぐ中、こうしたクラブレベルでの交流も深まることになれば、相互の発展、友好にも拍車が掛かるだろう。

## 東日本大震災の被災地で簡易照明の贈呈式

東日本大震災復興支援を継続するJリーグは、7月21日に開催した「東日本大震災復興支援 2012 Jリーグスペシャルマッチ」での収益の一部、Jリーグ開催スタジアムなどで実施している「TEAM AS ONE 募金」を原資として、簡易照明を購入。被災地の限られたスペースでサッカーをしている子どもたちが、少しでも長い時間、プレーできる助けになることを願って、各地元サッカー協会へ寄贈した。8月24日に宮城県の気仙沼市立大谷中学校、同29日には岩手県の大槌町小中学校仮設校舎(仮称)で贈呈式が行われた。

大谷中での贈呈式には、日本サッカー協会特任コーチで宮城県出身の加藤久氏、ベガルタ仙台アンバサダーの平瀬智行氏をはじめ



大谷中で行われた贈呈式(宮城県気仙沼市)

め、気仙沼市サッカー協会、学校関係者が出席。贈呈式終了後には簡易照明を点灯し、加藤、平瀬の両氏の指導を受けて地元のFC大谷の選手17人が練習を行った。

現在も校庭に仮設住宅がある大谷中では、簡易照明施設のない隣のフィールドでサッカーの



照明のもとで練習する子どもたち(岩手県大槌町)

練習をしている。すでに日が暮れた時間に練習を終えた選手たちは、「この時間でも明るい中でプレーできてうれしかった」「みんなの顔もはっきり見えて良かった」など、喜びの声を上げていた。簡易照明は、岩手県、宮城県の沿岸部12地域に対し、56台が寄贈される。



# 「2012 Jユースカップ」が 10月からスタート

Jリーグは10月20日(土)より、ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「2012 Jユースカップ 第20回 Jリーグユース選手権大

会」を開催する。

Jリーグの各クラブは発足当時から、日本サッカー協会、日本クラブユースサッカー連盟、

地域のサッカーカラブ、部活動などと連携して、地域の育成普及に力を注いでいる。20回目の節目を迎える本大会には、初めてJ1・J2全40クラブが参加する。過去に多くの有望な選手が輩出し、年を追うごとにその価値を高めている本大会を通じて、参加選手たちが大きく成長することが期待されている。

2012 Jユースカップ 第20回 Jリーグユース選手権大会	
大会概要	<p>■大会名称：2012 Jユースカップ 第20回 Jリーグユース選手権大会</p> <p>■主 催：公益財団法人 日本サッカー協会／公益社団法人 日本プロサッカーリーグ／朝日新聞社／日刊スポーツ新聞社</p> <p>■共 催：一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟</p> <p>■協 賛：株式会社日本旅行</p>
予選リーグ	<p>■開催日：10月20日(土)～11月11日(日)</p> <p>■大会方式：J1、J2の40クラブを10グループに分け、各グループで1回戦総当たりリーグ戦を行う。</p> <p>Aグループ) 鹿島／水戸／千葉／F東京 Bグループ) 札幌／仙台／栃木／大宮 Cグループ) 山形／草津／浦和／柏 Dグループ) 東京V／川崎F／新潟／岐阜 Eグループ) 横浜FM／湘南／富山／G大阪 Fグループ) 町田／横浜FC／磐田／名古屋 Gグループ) 甲府／松本／清水／京都 Hグループ) 広島／徳島／福岡／熊本 Iグループ) C大阪／岡山／鳥栖／大分 Jグループ) 神戸／鳥取／愛媛／北九州</p>
決勝トーナメント	<p>■1回戦：11月17日(土)・18日(日)／味の素フィールド西が丘、味の素スタジアム西競技場、万博記念競技場、姪崎中央公園陸上競技場</p> <p>■2回戦：11月23日(金・祝)／出場クラブのホームスタジアムなど</p> <p>■準々決勝：11月25日(日)／ウェーブスタジアム刈谷、万博記念競技場</p> <p>■準決勝：12月22日(土)／万博記念競技場</p> <p>■決勝：12月24日(月・祝)／大阪長居スタジアム</p>



昨年の大会の優勝カップ

## 実行委員・参与選任について

Jリーグは9月18日に開催した理事会で、FC岐阜の実行委員を今西和男氏から薫田大二郎(くんだだいじろう)氏へ変更することを承認した。また、今西氏の実行委員退任に伴い、同氏を参与に選任することを決定した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
FC岐阜	今西 和男 株式会社岐阜フットボールクラブ 前代表取締役社長	薫田 大二郎 株式会社岐阜フットボールクラブ 代表取締役社長

参 与	
今西 和男：株式会社岐阜フットボールクラブ 前代表取締役社長 実行委員：2007年12月～12年8月(在籍期間4年8ヶ月)	敬称略

## 株式会社ブリヂストン、株式会社サガン・ドリームス共催 「特別講演会」を後援

Jリーグは9月18日に開催した理事会で、(株)ブリヂストンと(株)サガン・ドリームスの共催によって11月1日(木)に鳥栖市民文化会館大ホール(佐賀県鳥栖市)で行われる「特別講演会」を後援することを決定した。ことしで5回目となる本講演会は、地域密着を掲げるクラブがクラブスポンサーでもある地元の企業とともに、より一層の地域貢献を図ることを目的に実施。今回は日本サッカー協会最高顧問の川淵三郎氏が「人を育てる」をテーマに講演を行う。

第14回図書館総合展フォーラム 「図書館からスタジアムへ スタジアムから図書館へ ～地域活性化に貢献するJリーグと公共図書館の連携～」を後援	
--	--

Jリーグは9月18日に開催した理事会で、11月21日(水)にパシフィコ横浜展示会場内(横浜市西区みなとみらい)で行われる第14回図書館総合展フォーラム「図書館からスタジアムへ スタジアムから図書館へ～地域活性化に貢献するJリーグと公共図書館の連携～」を後援することを決定した。本フォーラムは、「Jリーグ百年構想」を掲げ、ホームタウンにおいて地域社会と一緒にクラブルづくりに取り組んでいるJクラブと、読書活動の啓発・推進とともに、地域社会の問題解決を支援し活性化を取り組む公共図書館の連携によるさまざまな効果を、Jリーグ20周年の節目に振り返り、地域文化の醸成への貢献の可能性を探ることを目的に開催する。

## 「第5回ガンバ大阪スカンビオカップ」を後援

Jリーグは9月18日に開催した理事会で、10月13日(土)に万博フットサルクラブ(大阪府吹田市)で行われる「第5回ガンバ大阪スカンビオカップ」を後援することを決定した。本大会は、サッカー(フットサル)を通じて、精神障がい者が社会生活に触れる場をつくり、社会復帰や回復への支援を行い、さまざまな地域との交流を図るなど、この活動を広めることで精神障がいへの偏見を取り除くことを目的に開催する。

## 2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝 キックオフ時刻およびテレビ放送決定

來たる11月3日(土・祝)に、国立競技場で行われる「2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ」決勝のキックオフ時刻およびテレビ放送が下記の通り決定した。なお、同大会決勝のチケットは10月20日(土)10:00より一般販売を開始。チケット販売の詳細については、決定次第お知らせする。

2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝 キックオフ時刻およびテレビ放送					
開催日	キックオフ	対戦カード	スタジアム	テレビ放送	ラジオ放送
11月3日 (土・祝)	13:05	未定 (10月13日に決定)	国立競技場	フジテレビ系列にて 全国生中継	未定

## 環境省「スマートムーブ」、「朝チャレ!」へ協力

Jリーグは、環境省が推進する「スマートムーブ～「移動」を「エコ」に。～」と「朝チャレ!（朝型生活にチャレンジ）」に協力する。

スマートムーブ(smart move)とは、環境省が実施するチャレンジ25キャンペーンで日々の「移動」に着目し、CO<sub>2</sub>排出が少なく、快適・便利で健康にもつながるライフスタイル。賛同企業・団体と連携しながら、公共交通機関の利用や自転車活用、自動車の利用方法の工夫など、移動にまつわるさまざまな行動への参加を呼び掛ける。

また、朝チャレ!とは、環境省が推進する「朝から始めるエコ活動」。早寝早起きといった一日を送ることで不必要的夜の電力消費を抑えるとともに、健全で充実した新しいライフスタイルの実現を目指す。

Jリーグは公式試合会場における啓発活動、Jリーグ公認ファンサイト「J's GOAL」でのJ1・J2各クラブの選手代表による活動啓蒙メッセージ動画などを通じて協力を行っていく。

33

コンサドーレ札幌



## 食育推進の狙いが着実に浸透。 多様な取り組みを通して輪が広がる

### 選手参加の影響も大きい

5月26日のJ1リーグ戦第13節、サンフレッチェ広島戦を終えると、選手はすぐに車に乗り込み、北海道各地に散らばった。翌日には道内10カ所で「みんなのよい食JA親善大使」として、楽しそうに子どもたちとボールを追い掛け、お弁当を食べる姿があった。

留萌(るもい)管内天塩(てしお)町を訪れた岡本賢明選手会長は「試合になかなか来られない地域の人と触れ合えた。試合に負けた後だかられど、リフレッシュできた」と交流を喜んだ。

コンサドーレ札幌を運営する株式会社 北海道フットボールクラブ(HFC)とJAグループ北海道は、2007年に「食農教育」などを進める相互協力協定を締結。国内最大の食料生産地である北海道の農業とサッカーが連携する珍しい取り組みで、さまざまな提携事業を開催。その中で、最も規模が大きいのが「JA親善大使」イベントだ。

同イベントは10年から始まり、これまで3年目。毎年道内各地で開催し、1,200人以上の子どもたちが参加した。プロのサッカー選手と一緒にミニゲームを楽しむ他、トラクター試乗や精米、乳搾り体験など食育面を重視。イベントを通じて、地域の農業や農畜産物を知ってもらう狙いがある。

各地区で力を入れているのが「よい食お弁当教室」。イベント参加者が、地元の食材と道産食材を中心に、お弁当を親子一緒に作って持参してもらうというルールだ。使用した食材を

カードに記入し、それが地元産か道内産などをチェックしてもらう。旬だった地元産アスパラガスを活用したお弁当が多かったという。

相互協力開始当時から担当するJA北海道中央会総合管理室共通広報課の鈴木茂明さんは「一緒に買い物をしたり、弁当を作ったりすることで、こんな食材が地域にあるんだという話題になる。親子のコミュニケーションを深めるきっかけにもなると思う」と話す。

釧路地区で参加した小学4年の男児は「产地を見ながら食材を探すのが楽しかった。野菜を切って、焼いて、おかずが出来上がるのがワクワクしてうれしかった」。さらに「初めて弁当を作つて大変だった。毎日作るお母さんはすごいなと思った」と感謝の気持ちを口にした。

選手たちが参加する影響も大きい。トークショーで子どもたちから「どうしたら体が大きく強くなるの」という質問に、選手は「好き嫌いせず、たくさん食べること」と答えた。「プロ選手が来るだけで子どもの目が輝くのが分かるし、夢が広がる。親子で話を聞いているし、食事の話題でも説得力がある」と鈴木さんはうなづく。

プロ選手がタフな体をつくっている源は食事。プロになるためには食も大事と子どもたちに理解してほしい——。食育を推進するため、JAグループ北海道がHFCと協定を結んだ当時に描いた狙いは、着実に浸透しているといえる。



鈴木茂明氏



農園では選手たちが自ら春に種をまき、秋には収穫を行う

©2012H.F.C

### 参加者の成長を実感

「トウキビってこんなに甘いんだ」。札幌市に隣接する北広島市に、09年に開設された「コンサ・土(ド)・農園(ファーム)」。収穫のたびに選手たちの顔に笑みが広がる。

JAグループとHFCが設けた同農園では毎春、選手自らジャガイモとスイートコーンの種をまき、秋に収穫。収穫した農産物は選手寮の食事で使用する他、試合会場でチャリティー販売する。その収益でサッカーボールを購入し、児童養護施設に寄付している。

また、HFCはさっぽろ健康スポーツ財団と共に「コンサドーレ札幌スポーツスクール in Fu's」を04年から毎年開く。小学3~6年を対象に、サッカーをはじめ、スキー、リュージュ、スノーボードなど、北海道ならではのスポーツに親しんでもらうのが狙いだ。

HFCスタッフや各種目のインストラクターが指導。参加者は7月~翌年2月まで同じメンバーで約16回行う。同スクールを担当する藤野野外スポーツ交流施設の室橋伸泰さんは「地域のプロクラブと一緒に取り組むことで、地域活性化につながる」。HFCジュニアサッカースクールマスターの佐々木滋さんは「高学年がリーダーシップを取るなど役割分担ができる。おとなしかった子も個性が出てきて、仲間が増えていく」と参加者の成長を感じ取っている。

HFCの熱海寿広報事業部長が「多様な取り組みを通してコンサドーレを身近に感じてもらえば。将来的にチームの応援にもつながると思うし、その輪を広げていきたい」と話すように、若年層を中心にアプローチしていく多様な取り組みは今後、確実に実を結んでいくだろう。

(北海道新聞社 舩本 篤史)



「みんなのよい食 JA親善大使」のイベントで、札幌の選手と一緒にお弁当を食べる子どもたち

©2012H.F.C

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号ではコンサドーレ札幌、ギラヴァンツ北九州と連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



34

ギラヴァンツ北九州

## 手を取り合って集客の新規開拓。 スポーツと文化の相乗効果に期待



北九州市漫画ミュージアムの選手写真パネル。異なるジャンルを融合させて集客を図る

### 素朴な疑問から実現した企画

本州から九州に来た観光客の玄関口となるJR小倉駅(北九州市)。その北側・新幹線口にある商業ビル内に8月、地元にゆかりのある漫画家を中心に、新旧の作品や原画が並ぶ「北九州市漫画ミュージアム」がオープンした。入り口をのぞくと同市育ちの松本零士氏の代表作「銀河鉄道999」に登場する、「メーテル」に装った受付嬢が出迎える。

その一角に、縦2.8m、横5mの巨大パネルが鎮座していた。映っていたのは同市をホームタウンとするギラヴァンツ北九州の5選手だ。それぞれが好きな漫画と理由を紹介。エースストライカーのFW池元友樹の「キャプテン翼。子どもの頃から読んでいるので」など、選手たちのコメントが寄せられていた。

漫画とサッカーという異なるジャンルの融合を発案したのは、同ミュージアムで専門研究員を務める表智之氏だ。「漫画をきっかけに北九州という街を知ってほしかった」。特に北九州市は1965年度の第44回天皇杯全日本サッカー選手



表智之氏

権大会で優勝した八幡製鉄(現在の新日鐵八幡製鉄所)を軸に、かつて企業スポーツが盛んだった。同市育ちの漫画家からマラソンや柔道の漫画も生まれている。「じゃあ、現在上り調子のギラヴァンツの選手は今、どんなものを読んでいるのか気になった」と表氏は明かす。

素朴な疑問から実現した企画には、手を取り合って集客につなげる狙いが込められている。ギラヴァンツは今シーズンの1試合平均入場者数が3,303人で、J2の22チーム中20位(第32節終了時点)と苦戦。一方で年間10万人の来館を目指す同ミュージアムはオープンした8月の1日平均入場者数は約500人と順調であったが、9月以降の集客対策が必要になる。

「ここに来る人がみんなサッカーに興味があるわけではない。でも、この街にJ2のチームがあることを伝えられる」と表氏。パネル横に置いた試合告知のチラシは、来館者が1カ月で300枚以上も持ち帰った。逆にギラヴァンツもミュージアムのイベントをメールマガジンで紹介。ギラヴァンツサポーターも来館するなど、ともに新規開拓を見込める形が出来つつある。

クラブと同ミュージアムの協力は、長期的にも大きな意味合いを含んでいる。JR小倉駅

新幹線口近くには2016年度末に球技専用の新スタジアムが完成する予定で、ギラヴァンツ北九州の新しいホームスタジアムとなる。JR小倉駅から新スタジアムまで徒歩約10分。その道中に同ミュージアムがある。北九州市としては、小倉駅北側の再開発が長年のテーマ。二つの施設が良い化学反応を起こし、地域の活性化につながることを期待している。

「館内に寄ってからスタジアムに行く流れになれば。そのためにも双方が高め合うパートナーシップを築きたい」と、ギラヴァンツ北九州広報の津川弘子さん。現在の展示は企画展が開かれている10月21日までだが、今後も館内にギラヴァンツ北九州のコーナーを検討中。シーズンオフの選手のトークショーなど新たな構想は尽きない。

### クラブを通じて街を活性化

北九州市はもう一つ、異ジャンルを活用した集客策に取り組む。北九州市立中央図書館のエントランスに設けられた、ギラヴァンツ北九州のユニフォームやフラッグなどの展示コーナーだ。サポーターが手書きしたイラスト付きの試合告知ポスターもあるなど、手作り感が出ている。ガイナーレ鳥取がある鳥取県を中心に全国各地の図書館が連携するキャンペーンの一環で、北九州市も4月に参加を始めた。

企画に携わる同市スポーツ振興課の佐藤全(まさ)氏は、個人的にもサポーターとして5年目を迎える。当初はJFLで、「同じプロアで働く職員ですら、まだまだ関心度は低かった」と当時を振り返り、「確実に職員全体に知名度は高まっている」と感じている。

「いろんな角度からギラヴァンツにアプローチし、これまでサッカーに縁遠かった人もボディーブローのように引き込みたい。スポーツから一番離れている場所が図書館。北九州では文化もスポーツも力を入れているので相乗効果があれば」と佐藤氏は考える。文化とスポーツという双方を高め合い、ギラヴァンツ北九州を通じて街を活性化させていく。

(西日本新聞社 末継 智章)



佐藤全氏

—「Jリーグ百年構想サッカー教室」初めて北海道で開催—

## 青い海と空に響いた 子どもたちの歓声



果てしなく広がる太平洋をバックに、榎法華小の児童ら、参加者が記念撮影。岬に笑顔と歓声があふれる1日となった

©亀田 則道

Jリーグが主催し、Jリーグ百年構想パートナーの朝日新聞社、コンサドーレ札幌が協力した「Jリーグ百年構想サッカー教室」が9月13日、函館市の恵山岬灯台公園で開催された。2004年3月に始まった同教室は、12回目となった今回、初の北海道開催となった。

函館市中心部から東へ約50kmの会場で行われたサッカー教室には、函館市立榎法華(どほっけ)小学校(三浦務校長)の全校生徒36人が参加。日本代表、Jリーグ選手として活躍したJリーグ百年構想メッセンジャーの城彰二氏、札幌のアドバイザリースタッフの

曾田雄志氏らの指導を受けて、ボールを用いた鬼ごっこやミニゲームなど、間近に太平洋を望む公園の芝生の上で元気に体を動かした。また、城氏とともにJリーグ百年構想メッセンジャーを務める「Mr.ピッチ」、札幌のクラブマスコット「ドーレくん」も登場し、子どもたちと触れ合った。

教室の最後には、曾田氏が夢を持つことの大切さを熱く語り、子どもたちも真剣なまなざしで耳を傾けていた。普段はこうしたイベントに参加する機会が少ない子どもたちにとっては、思い出深い1日となったことだろう。

城氏も「今回は函館の岬のそばのピッチで、大自然の中での開催でした。子どもたちはつらつとした表情に元気をもらいましたし、自分自身も非常に楽しんで走り回れたことが何よりの喜びでした」と、充実した時間を過ごした感想を述べた。

Jリーグは今後も、理念の一つである「豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与」を実現するため、Jリーグ百年構想に共鳴するパートナーなど協力しながら、芝生に関連したさまざまな取り組みを推進していく。



ボールを使っての鬼ごっこに興じる子どもたち



澄んだ青空のもと、子どもたちの元気な声が響き渡った



城氏も加わって、芝生の上でミニゲーム



サッカー教室の最後には曾田氏(左)が夢の大切さを伝えた



終了後にはサッカー教室の模様を伝える号外が配られた

